大阪市立大学工学部同窓会報　第32号　　2016年（平成28年）12月22日発行

大阪市立大学
工学部同窓会

同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3－3－138
TEL 06（6607）8373
FAX 06（6605）2769
発行人　西口　克彦

《　目　次　》

西口会長・佐藤名誉会長の挨拶 …… 2
市大TOPIC …… 3
学科の近況・会員短信（機械工学科）…… 4
〃　（電子・物理工学科）…… 6
〃　（電気情報工学科）…… 8
〃　（化学バイオ工学科）…… 9
〃　（建築学科）…… 11
〃　（都市学科）…… 12
工学研究科・工学部研究分野 …… 15
2016年工学部入学生名簿 …… 16
〃　工学研究科入学生名簿 …… 17
〃　工学部卒業生〔就職・進学先〕…… 18
〃　工学研究科修了生〔就職・進学先〕…… 18
学生工場見学会 …… 19
工学部新任・若手教授による講演会 …… 20
工学部同窓会事務局便り …… 21
同窓会ホームページへのアクセス・編集後記 …… 23
平成29年“工学部同窓会の集い”の案内 …… 24

ごあいさつ

工学部同窓会会長　西口　克彦

平成28年12月“工学部同窓会だより”の発行に当たりご挨拶を申し上げます。
工学部同窓会員及び準会員の皆様、日頃から同窓会活動に、ご理解と御協力を頂き感謝申し上げます。

大阪市長に、吉村氏が就任され、府立大学と私立大学の統合計画は進み始めました。そして、副首都推進本部が設置され大学統合に向けて議論が始まりました。その理念は、大阪の発展を牽引する魅力ある大学であり、交付金の削減が目的ではないと詠われています。今後の進行は不透明ですが、日本の大学の状況は、少子化で新生児の数が100万人まで減少し、大学への進学率は50％を超えてきました。そのような環境下で大阪の公立大学を２校維持するのが難しくなるのは目に見えております。そこで、府立大学と市立大学が、何らかの形の統合はいずれ実現されるものと思われます。

大阪市立大学の同窓会は一元化され４年になります。予算的には、当初計画の全額が確保されましたので、有恒会の事務局に運営を依存しております体制から脱皮を図るべき体制へと移行を進めています。まず、同窓会HPの充実は全学同窓会、工学部同窓会等のHPを刷新しました。ぜひ皆様の閲覧と投稿運用をお願いします。次に全国の地方支部は順次全学同窓会支部に名称を変更しております。工学部同窓会の皆さんも、各支部への積極的な参加とご協力をお願いします。また、全学同窓会誌もタブロイド版から冊子タイプに充実を考えております。

一方、我々工学部同窓会の活動は、執行部の責任体制を充実し、昨年と同様に奨学金制度の運用、ホームカミングデーでの若手教授の研究講演会、在校生対象の工場見学会、会報の作成、メールマガジンの運用など、充実してきました。

最後になりましたが、杉本キャンパスに同窓生が何時でも集えるスペースが田中記念館に備わっています。杉本町にお越しの際は、記念館３階の全学同窓会または工学部内の工学部同窓会室に足をお運び頂きますよう、お願い申しあげます。寒さ厳しき折ご自愛ください。

（応用化学43年卒）

名誉会長　佐藤　嘉洋

今年の秋は野菜の値段が高く、例年と較べて数倍もする野菜も多くあったとのことです。これは台風が多く特に北海道を直撃する台風が多かった事に加え、秋雨前線が停滞し、日照が少なかったことが原因として考えられているようです。いずれにしてもこの秋はあまり恵まれた天候ではなかったようです。同窓生の皆様におかれましては益々ご活躍ことと推察申し上げます。

私は本年４月に研究科長・学部長を拝命し、長崎健副研究科長、高橋秀也教育研究評議員および教職員の皆様に助けられながらここまでやって参りました。型どおりですが、工学部・工学研究科の近況について報告申し上げます。

先ず教員の人事異動です。平成28年３月末日に大嶋寛教授（生物化学工学）、矢持進教授（水圏生態工学）および多羅間茂雄教授（応用数学）の３名の教授が定年退職されました。定年退職予定でありました谷池義人教授（建築防災）は平成28年３月21日にご逝去されました。また、４月１日付で松岡千博教授（応用数学）、相馬明朗教授（水圏生態工学）、ガヴァンスキ江梨准教授（建築防災）、中條壮大講師（水理学）、尾島由紘講師（細胞工学）、北川大地特任助教（材料化学）、鈴木裕介特任助教（建築構造）および西山聖特任助教（高分子科学）が着任され、谷口徹郎准教授（建築防災）が教授に山田卓講師（地盤防災工学）が准教授に昇任されました。10月１日には佐藤絵里子講師（高分子科学）が准教授に昇任されました。

次に学生の動向です。平成28年３月に277名が工学部を卒業しました。大学院では183名が前期博士課程を、６名

が後期博士課程を修了しました。平成28年４月に298名の学生が新たに工学部に仲間入りしました。大学院には前期博士課程183名が、後期博士課程６名が入学しました。また、平成28年９月に大学院前期後期博士課程学生１名が修了しました。

オープンキャンパスは８月６日（土）－７日（日）の日程で開催され、２日間合計で4,134名の方にご参加頂きました。参加頂いた人数から考えますとまだまだ市大の人気はあるようにも見えますが受験生が行きたくなるような大学を目指し努力したいと考えております。

同窓会にお世話になっている学部生奨学金制度につきましては平成28年度は８名の応募があり、２名に貸与されました。また、工学研究科は他研究科との連携も積極的に進めており、医学部が設立した「ものづくり医療コンソーシアム」にも参画しています。

現在、大学は変革の波のただ中にあります。市大工学部はこれまでの特徴と伝統を守りつつこれからの新しい方向生を考えて参ります。同窓会の皆様には益々のご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のなお一層のご活躍をお祈り申し上げます。

（工学研究科長・工学部長）

市大TOPIC

「大阪府立大学との統合について」

同窓会の皆様には気に掛かる事柄の一つに大阪府立大学との統合問題があるのでは無いでしょうか。そこで大阪府立大学との統合問題について少し整理して報告させて頂きます。

2011年11月の知事・市長同時選挙において松井一郎氏と橋下徹氏の大阪維新の会の両候補者が当選を果たし、二重行政解消の公約の下で大学の統合が議論されるようになった。2012年６月には「新大学構想会議」が発足した。７月の第３回会議では市大の複合先端、理、工、経がヒアリングを受けている。11月には「大阪府市新大学構想会議」が発足した。2013年１月には「大阪府市新大学構想会議」から新大学構想＜提言＞～統合と再編、新教学体制と大胆な運営改革～が発表された。この提言で市大工学部を母体として地球未来理工学部、研究科の新設が提案された。この提案について大学では新大学検討本部 理工学系WG、研究科ではあり方検討会が中心となり検討が行われた。一方、「大阪府市新大学構想会議」では市民からのパブリックコメントを募り、パブリックコメントを一部反映した新大学ビジョンを９月に発表した。新大学案～新世代の大学～大阪モデルを10月に大阪府・大阪市・大阪府立大学・大阪市立大学が協同して発表した。その後、2014年10月には「新・公立大学」大阪モデル（基本的考え方）が、2015年２月には「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）が大阪府立大学と大阪市立大学により発表された。５月に行われた大阪市特別区設置（都構想）住民投票により都構想が否決されると大学の統合問題も下火になっていった。しかし11月の知事・市長同時選挙において松井一郎氏と吉村洋文氏の大阪維新の会の両候補者が当選を果たし、都構想再チャレンジが掲げられ2015年暮れから2016年初めの府議会、市議会で大阪府立大学および大阪市立大学の中期目標が変更され再び大学統合が議論されることになった。この間2015年12月には「副首都推進本部」が発足した。2016年４月開催の第３回副首都推進本部会議では、大阪府立大学・大阪市立大学統合に向けた検討体制や進め方について議論された。この会議の資料「府市大学統合について」で統合のための論点が整理され、府・市の担当者と両大学による新大学設計４者タスクフォースを設置し、上山特別顧問などの有識者からの助言を得て作業を行うことになった。５月に上山特別顧問を中心とする有識者グループから工学部の現状についてのヒアリングを受けた。８月開催の第５回会議では、会議資料「新大学について－検討経過の報告－」が特別顧問、特別参与および４者タスクフォース事務局から出された。この報告では１法人１大学を目指すが、過渡的に１法人２大学とする。教育・研究、組織および名称などは新法人になってから決定する事項としている。また、新大学には従来の「教育」、「研究」および「地域貢献」の３機能に加えて「都市シンクタンク」および「技術インキュベーション」の２つの新機能の充実が求められた。具体的には「都市シンクタンク」機能の戦略領域はA.パブリックヘルス/スマートエイジングおよびB.スマートシティであり「技術インキュベーション」機能の戦略領域はC.バイオエンジニアリング/創薬およびD.データマネジメントである。市大ではこの報告書についての意見募集を行い、検討を行っている。９月には特別顧問、特別参与グループによる「新大学について－検討経過の報告－」についての説明会が催された。現在、大学として新機能の４戦略領域について府・市および両大学でワークショップを組織して実現可能性などについて検討を始めている。工学研究科としては、新機能の４戦略領域を取り込みつつ、現在の纏まった教員集団を単位として新大学へ貢献できる体制を検討している。

（工学研究科長・工学部長）

近況報告

機械工学科（旧機械・旧知材）

機械工学科の近況

工学研究科教授・機械工学科主任教授
高田　洋吾

卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。機械工学科では2016年３月に57名が卒業し、その内、17名が就職、38名が本学大学院に進学し、若干名が他大学大学院に進学しました。また、同じく2016年３月に機械物理系専攻前期博士課程を38名が修了しました。38名全員が就職し、今後、社会人としての活躍が期待されます。学部生と大学院生の就職先として、自動車関連や重工、電気・食品・医療等の機器メーカー、銀行などの民間企業や官公庁と多岐にわたっています。そして、同年４月に56名の新入生が入学してきました。

続いて、教員の近況についてご報告いたします。まず、佐藤嘉洋教授が2016年４月から工学研究科長・工学部長としてご活躍されています。また、長年、共通講座として工学部・工学研究科の数学教育に携わってこられ、多くの機械工学科学生の卒業研究指導をなされた応用数学分野の多羅間茂雄教授が2016年３月に定年退職されました。そして、同年４月から松岡千博先生を応用数学分野の教授としてお迎えし、数学の講義科目をご担当頂くとともに、機械工学科学生の卒業研究指導にご尽力頂いています。

また、2016年４月に第３回副首都推進本部会議において、大阪府立大学と統合する方向で進めることとなり、両大学の強みを活かした魅力ある新大学の具体化について検討がなされています。本機械工学科でも、今よりも更に研究教育が活発な学科を目指して、議論する機会が頻繁になりました。

最後になりましたが、卒業生の皆様のますますのご健勝とご活躍を心より祈念いたしますとともに、引き続き本学科へのご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

「近況報告」

機械・平成18年卒・同20年前期博士修了・川崎重工業（株）　**谷河　利信**

この度は同窓会報へ寄稿させて頂くことになり、誠にありがとうございます。私は2008年３月に機械物理系専攻（流体工学研究室に在籍）修了後、輸送用機器メーカーに就職し、現在まで北米の鉄道車両の設計部

門で業務を行っております。

北米の鉄道車両は皆さんあまり馴染みがないと思いますが、日本の鉄道と異なり、分厚い仕様書で要求が細かく定められています。例えば、トレーラー等との衝突を想定した衝突性能や床下機器から発火しても乗客が逃げられるのか確認するため、床構造を実際に燃やす試験、窓にライフルを撃って貫通しないことを証明する試験など多岐にわたります。

また、米国での雇用を生み出すため、現地での材料調達、現地生産が契約上要求されています。そのため、客先だけでなく、海外ベンダーや現地生産拠点と日々英語を使いながら仕事を進めております。多くの市大生も同じかもしれませんが、私は昔から英語が苦手ですので今も苦労しております。危機感を感じ、オンライン英会話を１年以上続けた結果、少しはましになったように思います。

先日、自分が数年担当したワシントン首都圏交通局向け地下鉄に初めて乗車する機会がありました。その時、何とも言えない充実した気持ちになりました。

私事で恐縮ですが、2010年に結婚し、２人の息子が産まれました。長男は電車が好きなので今のところ私は尊敬の対象となっています。次世代に恥ずかしくない製品を残せるよう今後も日々精進していきたいと思います。

最後になりましたが、在学中にお世話になった先生方、卒業生の皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

「近況報告」

機械・平成23年卒・同25年前期博士課程修了・㈱小松製作所　桐谷　友輔

卒業生の皆様におかれましては各方面でご活躍のことと思います。私は2013年に機械物理系専攻を修了し、株式会社小松製作所（コマツ）に入社し、粟津工場（石川県小松市）にて油圧ショベルの開発に従事しております。近況報告として３つテーマを考えました。

①現在の業務

とある機種のレボルビングフレームという約１トンの板金部品の設計を担当しています。この部品は油圧ショベルの上半身（回転する部分）の全部品を載せる土台部品です。土を掘る度に車体が振動することで絶えず負荷がかかるため、特に鉄板同士の溶接部に高い強度が求められます。これを要求される品質以上の強度にし、生産性とコストも両立させるのが業務の主目的となります。

②最近思うこと

入社して４年、板金部品の設計に関わり、知識やノウハウは身についてきました。しかし、自分の担当部位以外のことは理解できていないと感じることが多く、特に電気／油圧システム、エンジン関連の部分に関しては、知識が追いついていません。この先のキャリアを考えればこれらの知識が不可欠となりますので、OJTだけでなく自発的な勉強が必要と感じます。

③プライベート

大阪を離れて４年になりますが、関西出身者が周囲に多いせいか関西弁は抜けていません。純関西人からすれば、北陸訛りの妙な関西弁を話しているようですが…。娯楽は体を動かすものが多く、飲み屋も少ないので卒業時より体重が10キロ減りました。自然が豊かすぎてゴルフばかりしています（娯楽が他にないわけではありません）。石川県は海も山も近くにあり、アウトドアスポーツには最高の場所だと感じます。

最後になりましたが、皆様のさらなるご活躍を願って結びとさせていただきます。

電子・物理工学科（旧電気一部・旧応物）

電子・物理工学科の近況

工学研究科教授・電子・物理工学科主任教授
寺井　章

卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

まず、学生の進路状況についてご報告致します。2016年３月に33名が電子・物理工学科を卒業し、そのうち８名が就職、25名が本学大学院に進学しました。また、大学院では、28名が前期博士課程（修士課程）を修了し、全員が就職しました。そして、４月には44名の新入生を迎えました。

学科教員の異動などは特にございませんが、定年退職された先生方に大学で時々お目にかかる機会があるのは嬉しいことです。2015年に退職され、静岡大学に移られた細田誠先生は、非常勤講師として年数回、大学にいらしています。2008年に退職され、中央アジアのウズベキスタン共和国の首都タシュケントにあるウズベキスタン国立大学で研究を続けておられる中村勝弘先生も、長期休暇で一時帰国された際には、もとの研究室を訪ねて、教員と共同研究をしたり、学生にセミナーをしたりして、私達を鼓舞してくださっております。

最近の話題として、数理工学研究室のコンピュータ将棋チームの活躍が挙げられます。2008年応用物理学科卒業の平岡拓也君が一人で始めた将棋ソフトAperyの開発に、数理工学研究室のメンバーが加わり、「世界コンピュータ将棋選手権」における優勝を始め、同選手権や「将棋電王トーナメント」での上位入賞を続けています。電王戦ではプロ棋士との対戦も経験しました。

大学統合など不確実な状況が続いておりますが、卒業生の皆様には従前どおり本学科へのご支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

「近況報告」

電気・昭和63年卒・平成２年前期博士課程修了・
東芝三菱電機産業システム㈱

宮崎　聖

在学中は電気機器研で交流モータを速度センサ無で制御するインバータの研究に従事していました。

1990年に東芝に入社し、引続き交流モータ駆動用インバータの開発・設計を担当しました。製鐵所の圧延機、製紙工場の抄紙機、港湾クレーン等に使われる交流モータを駆動するもので、当時、実用化され始めた「中性点クランプ式３レベルインバータ」の制御基板とソフトウェア開発を、入社直後から担当しました。初号機を製鐵所に納入し、最初の圧延で材料が圧延機を通過する際の地響きを体感し、感激したことを今でもハッキリと覚えています。

2003年に、ライバルだった三菱電機のパワエレ部門との合弁会社「東芝三菱電機産業システム株式会社（TMEIC）に異動となり、現在に至ります。最近は、中国、米国、インドに工場を設立し、品質指導や現地部品採用活動にも関わり、海外出張も増えました。英語は苦手ですが、何とか業務をこなしています。

転職の度に給料を上げていく文化の海外では、離職率も高く、その中で品質を安定させる難しさを実感しています。更に、日本では一般に、外注業者さん含めて製造メンバの技術力が高く、設計図面に多少曖昧な表現があっても何とかなりますが、海外では曖昧な表現はNGで、徹底的に図面を見直しました。また、最近話題になっているIoTを取り入れた生産工程管理や生産性向上への取り組みにもチャレンジしております。

市大へは昨年、25年ぶりに訪問し、駅前、校舎等が大きく変わり、驚きました。今後は毎年伺いますのでよろしくお願いします。

「近況報告」

電気・平成15年卒・同17年前期博士課程修了・ACTUNI㈱

末久　剛士

アメリカ合衆国大統領選のニュースを横目に、本報告を執筆しております。締切間際にならないと重い腰が上がらぬ性質は学生の頃から変わらずとはいえ、油断するとアッという間に過ぎ去る時の速さが年々身にしみる昨今です。

まるで後世の歴史書の１ページを体験しているような、そんな世の中ですが、私の周りでは映画や小説のように奇なることもなく、平穏な日々をおりす。大変幸福なことではありますが、いざ近況報告となると逆にそれが枷となるわけで、世の中ままならぬものです。

現在私は、卒業後配属されました非破壊検査事業部から、監視カメラや入退室の認証管理などを行うセキュリティ事業部へ異動となり、食品工場や建設現場向けの商品開発に携わっております。以前より携わっておりましたソフトウェアのみならず、ハードウェアにも広く携わるようになり、なかなか楽しい日々を過ごしております。

先日ちょっとしたご縁で、なつかしの研究室にお邪魔させていただく機会がございました。約10年弱ぶりに、在学中にご指導いただきました田中先生や村治先生にお会いできたのですが、容姿こそ白髪もちらほらと目立ち始めてはいるものの、在学中のころと変わらず若々しいご様子で、近況や同窓生の様子から始まり、工学分野や、はたまた経済分野にいたるまで、非常に多岐にわたる話で盛り上がってしまいました。

ついつい遅い時間まで話し込んでしまい、ご迷惑をおかけしたとお詫び申し上げる次第であります。

思えば、同窓の友人たちと会う機会もめっきり減ってしまいましたが、いまいちど連絡をとり、つまらぬ話で盛り上がるのも悪くない。そう思いつつ、結びとさせていただければと存じます。

「近況報告」

応物・平成20年卒・同22年前期博士課程修了・日本写真印刷㈱

土谷　真一

2010年３月に電子情報系専攻の修士課程を修了し、日本写真印刷株式会社（NISSHA）に入社しました。NISSHAでは、社名から想像される書籍など紙への印刷だけでなく、タッチセンサーやプラスチックの表面加飾などを開発、生産しています。最近ではIoT市場向けの無線センサーネットワーク製品など事業領域を拡げています。

入社から３年ほどはモノづくりの生産現場に近いタッチセンサーの設計業務に携わり、現在では新製品の開発担当部門に所属しています。仕事内容としては主に製品のメカ的な設計検討から試作品の評価を行っています。新製品の開発ということで社内にはそれらに関するノウハウがなく、自分たちで決めた仕様に対し妥当な設計になっているか、その評価方法は適切に行えているか、はたまた目標仕様自体がオーバースペックなものでないか、その都度検討し試行錯誤を繰り返しています。幸いにも昔から周囲の環境には恵まれており、上司や先輩ときには後輩にも助けられながら、ゆっくりとですが着実に前に進むことができています。

日々環境が変わり新しいものが求められる中では、必要な学問的な知識やスキルも増えていき、エンジニアとしてどういった方面に対しどのようにして専門性を深め広めていくかと考えることがあります。職場には中途入社されている社員も多く、そのバックボーンも様々で知見の多さに刺激を受けつつも、自分の武器といえるものは何だろうと、胸を張っていえることがないのが現状です。一方で新しいことへの挑戦に取り組みやすい職場でもあるので、仕事を楽しみながら環境をうまく活かせるよう慌てず恐れずチャレンジして現状を打開していきたいと思っています。

「近況報告」

応物・平成24年卒・同26年前期博士課程修了・京セラ㈱

竹内　祥真

冬が駆け足で近付いてくるこの頃めっきり日脚も短くなって参りましたが、同窓生の皆様におかれましては、お元気にお過ごしのことかと存じます。

早いもので、私が前期博士課程を修了してから２年半が過ぎました。修了後は、京セラ株式会社の横浜事業所にて研究開発に従事しております。最近の研究開発内容としましては、燃料電池システムのソフトウェア開発であり、日々新しいことに取り組んでおります。学生時代に作成していた動作すればよいソフトウェアとは異なり、燃料電池という危険な装置を如何に安全にかつ確実に動作させるのかということを念頭にソフトウェアを作成しており、いまだに学ぶことが多いです。一方で、研究に対する諦めない心や姿勢といったところは共通しており、技術面が拙い分学生時代より一層くらいつくように仕事をしております。

さて、修了してから大きく変わった環境の１つとして居住地があります。就職するまでは関西以外に住んだことがありませんでしたが、何かの縁で京都の会社でありながら前述の通り関東での勤務となりました。今まで名前しか聞いたことしかなかったような場所に一眼レフデジタルカメラを片手に自分の眼で見た以上の感動を一枚に収めるべく写真を撮り休日を過ごしております。いずれは、コンクールなどにも挑戦していきたいと考えております。

最後の応用物理学科卒業生として恥ずかしくないよう、公私ともに日々新しいことに挑戦していきたいと考えております。

末筆になりましたが、同窓生の皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

電気情報工学科（旧電気一部・旧情報）

電気情報工学科の近況

工学研究科教授・電気情報工学科主任教授
原　晋介

卒業生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

学科再編により電気情報工学科が平成25年に誕生して以来、電気工学から情報工学といった幅広い学問に興味を持った学生が学部に次々と入学するようになっています。平成28年４月には、45名の新入生が入学してきました。教育研究領域制も定着した感があり、学生の研究に対する興味に関しても面白いことに、学部４年時には、エレクトロニクス領域、情報処理領域と情報通信領域といった各領域に、同じくらいの数の学生が第一希望で配属されるようになっています。

平成28年10月現在、55名の４年生が在籍しており、そのうち33名が本学大学院等の前期博士課程に進学予定です。また、大阪府立大学と共同で３年前に開始した博士課程リーディングプログラムは、材料・物質から情報のことがわかるリーダーを大学院５年一貫教育で育てることが目標ですが、軸足がどちらかと言うと材料・物質よりだったため、電気情報工学科からの合格者がこれまでいませんでしたが、やっと合格者が出、平成28年４月から１名がこのプログラムの履修生になっています。

今年度も就職活動解禁時期が昨年度と同様に８月なりましたが、大きな混乱もなく、就職に関しても、これも昨年度に引き続き、電気から情報関連分野のサービス業からメーカといった幅広い業種から多くの求人をいただいております。学部４年生は22名が、大学院前期博士課程の学生は22名全員が就職の予定です。

最後になりましたが、卒業生の皆様のこれからのご活躍を祈念すると共に、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

「近況報告」

情報・平成18年卒・同20年前期博士課程修了・同23年後期博士課程修了・
名古屋工業大学大学院工学研究科教員　**安在　大祐**

私は2011年３月に当時の電子情報系専攻後期博士課程を修了し、名古屋工業大学へ助教として赴任いたしました。学部４年生の研究室配属時から研究の面白さを感じて後期博士課程まで進学することを決意いたしましたが、修了後も研究活動に携わることができ、充実した日々を送っております。そして、現在は１年間ほどドイツのフリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン・ニュルンベルク校へ派遣されることとなり、ドイツの研究室生活をちょうど開始したところになります。

ドイツでは自分の新しい研究領域を開拓できるように日々がんばっておりますが、人と人との繋がりも研究活動において非常に重要と感じ、積極的なコミュニケーションも心がけています。そのコミュニケーションの中で日本とドイツの文化や考え方の違いに驚くことも多いです。例えば、今所属している研究室では夕方５時ごろになると帰宅が始まり、６時頃には教員も含めてほとんどの研究室メンバーは帰路に着きます。ドイツでは家庭を重んじる人が多いだけでなく、いたずらに遅くまで仕事をすることを良しとはせず、いかに仕事をスムーズに仕上げられるかも重要視されているようです。日本では少しでも多くの仕事を行おうと遅くまで仕事をしてしまう傾向にあったので、仕事のメリハリをつける意味で良い刺激を受けました。大学院修了後から現在もこのような恵まれた環境で研究を継続できているのも、学部及び大学院でお世話になりました旧情報工学科の先生方のご指導の賜物と深く感謝しております。

最後となりましたが、皆様のご健勝と今後の益々のご活躍を心より祈念いたしております。

化学バイオ工学科（旧応化・旧生応化・旧バイオ）

化学バイオ工学科の近況

工学研究科教授・化学バイオ工学科主任教授
東　雅之

卒業生の皆様のご健勝とご活躍お喜び申し上げます。また、日頃より本学科・専攻に多面的にご支援を頂き感謝申し上げます。平成28年度は、学部は史上最大の62名、大学院前期博士課程は38名の新入生を迎えています。ここ10年で定着しました学部１回生研修合宿が、９月にマリンロッジ海風館（淡輪）で全館貸し切りの状態で行われ、卒業生の東和薬品㈱の吉見智彦さんにご講演頂きました。学生の就職活動も順調に進み、８月には学部、修士共にほとんど進路が決定しています。公務員１名を除くと、ほぼ企業への就職になります。

教員組織は、長年本学にお勤めになられ、副学長をはじめ要職に就かれて教育・研究・運営にご尽力頂きました生物化学工学分野の大嶋寛教授が平成28年３月に定年退職されました。名誉教授の称号が授与され、現在は企業でご活躍です。また、平成28年４月に尾島由紘先生が細胞工学分野の講師として新たに着任されました。新化学技術研究奨励賞を受賞されるなどご活躍で、加えて教員の平均年齢を下げるのに大きく貢献されています。さらに、本学複合先端研究機構の吉田朋子教授が、本学科兼任教授（環境材料化学分野）になられ、卒論生２名が研究室に配属されています。平成28年10月には、高分子科学分野の佐藤絵理子先生が講師から准教授に昇進され、さらなるご活躍が期待されています。これら変更により、兼任を含めて教授10名・准教授６名・講師３名・特任助教２名の体制となりました。

化学バイオ分野は、今もなお世界中で活発に研究が進み、今後も大きく発展し社会への貢献が望まれています。昨年度は北里大学の大村智教授が天然有機化合物の探索研究により、本年度は東工大の大隅良典教授がオートファジーの仕組みの解明によりノーベル医学・生理学賞を受賞され、本分野の日本の研究レベルの高さが示されました。放線菌や酵母の研究が基礎となっており、微生物学を教えている教員としては喜ばしい限りです。両先生ともに現在の日本の風潮や科学技術政策のあり方に危惧を抱いておられ、「ヒトのマネをするとその人をこえることは絶対あり得ない」「役に立つという言葉が社会を駄目にしている」と警鐘を発信されています。大学での教育や基礎・基盤研究が将来の日本を支えると言っても過言ではありません。我々も身を引き締めて努力する所存ですので、引き続きご支援とご鞭撻をよろしくお願い致します。最後になりますが、今後の皆様のご活躍を祈念し、近況報告とさせて頂きます。

「生応化の思い出」

生応化・平成14年卒・同16年前期博士課程修了・広島県庁　　**町　一希**

私は2004年に生応化前期博士課程を修了後、広島県に就職して、現在は薬務課で臨床研究・治験の活性化事業や医薬品、医療機器メーカー等の製造販売・製造業許認可、医工連携の推進等に携わっています。色々な職種の方々と一緒に仕事をして、ステークホルダーも多いので叱られることや悩むこともありますが、「どちらが患者のためになるか」を最終的な判断基準にして、仕事をしています。それでも凹むことも多々あるので、論語を読んだりビーチボールバレーをしたりネットゲームしたりダラダラしたり、定期的に現実逃避しています。

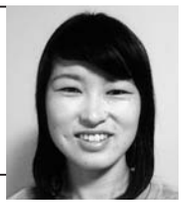
また、厚生労働省やＰＭＤＡ（(独）医薬品医療機器総合機構）に出向した際には、薬事法改正や医療機器審査業務（の極々一部）を担当していました。その経験も踏まえて、講演活動や法規制に関する各種相談も行っています。卒業生の皆様で、医薬品や医療機器等の開発で悩みを抱えている方は、お気軽に御相談ください（無料です）。

在学中は東雅之先生をはじめ、多くの先生方に御指導いただきました。そのおかげで今があると、本気で思います。ただ、当時は氷山の一角しか理解できておらず、御迷惑をおかけしたこと、この場を借りて御詫び申し上げます。19

名の同期とは、五十嵐先生のサンマ大会で他大学の方とも交流を深めたり、ボクシング部で一緒に汗を流したり、競技たこ焼き部を一緒に立ち上げたり、楽しい思い出が沢山あります。今思うと、あれが青春でした。同期の皆、最近会ってないけど、元気ですか～！？

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

「近況報告」



バイオ・平成21年卒・同23年前期博士課程修了・サンスター技研㈱　**田中（村山）　さゆり**

私は2011年に化学生物系専攻前期博士課程を修了後、サンスター技研株式会社に入社し、ハウスダスト対策商品の開発に携わりました。その後社内転籍し、現在は自動車用接着剤の開発に携わっています。

入社直後に担当したハウスダスト対策商品では、寝具などのハウスダストを減らすスプレーを開発しました。転籍後の自動車用接着剤では、自動車の窓ガラスを直接塗装された車体に接着させる接着剤を開発しております。自動車の衝突時にガラスが飛散しないことを目的とした安全性に関わる仕事です。社内転籍ですが、異分野に挑戦でき、自分自身の視野がとても広がりました。臆せず異分野に挑戦できたことは、在学中から指導してくださった先生方が「分野にこだわらず世の中に役立つものを研究せよ。」と、他大学や企業の方と連携して研究活動をさせてくださった賜物と、深く感謝しております。

また私事ですが、今年の４月より育休の末、復職し、仕事と育児の両立に挑戦しています。時間の制約がある中で成果を出すことの難しさを痛感しつつも、いつも笑顔をモットーに日々楽しく過ごしております。

同級生とは、出張などで近くに来た際は連絡を取り、定期的に会っています。学生時代の思い出話に花を咲かせたり、結婚や出産など人生の岐路での相談に乗ってもらったりと、卒業後も楽しく友達付き合いをしています。何事も相談できる友人は素晴らしい財産です。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍を祈念し、近況報告とさせていただきます。

「近況報告」

化バイオ・平成26年卒・同28年前期博士修了・昭和産業㈱　**松本　あずさ**

私は2016年３月に化学生物系専攻前期博士課程を修了し、同年４月に昭和産業株式会社に入社しました。現在は社会人生活を半年ほど過ごしたところで、正直まだ学生気分が抜け切れておりませんが近況を報告させて頂きます。

私は生産技術部に所属し、主な業務内容はミックス粉（天ぷら粉やホットケーキミックスなど）の製造上での問題を解決することです。工場、開発、研究の方と一緒に試験などを行っています。学生時代は細胞工学研究室に所属しパン酵母の研究をしていたため、粉体や機械の知識はほとんどなく日々新しいことを勉強する毎日です。少しずつ機械の知識も増え、特に工場での仕事では最前線のモノづくりの面白さを感じています。また学生時代の研究は全く無駄ではなく試験の取り組む姿勢、考え方、研究の方と一緒に仕事する時などに役立っております。「食」は何より自分の興味のあることであり日々楽しんでいます。最近は少し仕事にも慣れはじめ、入社当初よりは全体が見られるようになってきたので、しっかり自分で考え自分の意見を発言できるようにしていきたいと考えています。また失敗を恐れず行動力を大切に頑張っていこうと思います。

仕事面以外では、私は奈良県出身で今までずっと実家、関西で過ごしており、現在は千葉県が勤務地となり初めての一人暮らし、関東生活を送っております。幸い、大学同期が数名関東で働いており月一回のペースで集まりみんなの近況報告をし合い励まし合っています。これからも友人を大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、皆さまの益々のご活躍を祈念いたしまして、近況報告とさせていただきます。

建築学科（旧建築・旧環都一部）

建築学科の近況

工学研究科教授・建築学科主任教授
梅宮　典子

28年度主任の梅宮です。皆様いかがお過ごしでしょうか。

学科では４月に谷口徹郎先生が教授に昇任され、また、２人が着任しました。京都大学防災研からはガヴァンスキ江梨准教授。建築外装材の耐力算定試験や風荷重に対する建物のフラジリティ評価がご専門で、‘Behavior of glass plates under wind loads’で西オンタリオ大学から学位を取得、アメリカ風工学会最優秀論文賞を受賞された斯界のホープです。

東北大学災害科学国際研からは鈴木裕介助教。自己復元型RC構造・材料システムや、放射線遮蔽コンクリートのリスク評価の研究に取り組んでおられ、国際トラスコンテストの活動では建築学会教育賞を受賞されるなど、教育面での活躍も期待できます。

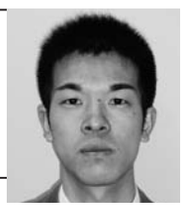
進路では学部は進学11、ゼネコン４、住宅２、公務員２、大学院は設計事務所４、不動産３、鉄道２、公務員２などが順調に内定しています。最近女子学生が増え、今年は新入生の38.2%を占めています。進路は多様化していくと思われます。

最後に、悲報があります。３月21日、谷池義人先生が帰らぬ人となられました。４日の最終講義『風と渦の果て』では研究者人生を淀みなく総括され、「久々の私の姿に驚かれたかもしれません。でも必ず元の姿になって、皆様の前に戻って参ります」と力強く仰って、講義後は奥様同伴で一人ひとりと挨拶を交わされました。半月後に亡くなられるとは誰が想像したでしょう。

スポーツマンで、ビールをこよなく愛された先生。懇親会でニコニコとピザを切って周囲に勧めておられたのを昨日のことのように思い出します。評議員を長く勤められ、学科、専攻、研究科、そして大学の将来を誰よりも気に懸けておられました。

ここに先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

「近況報告」



建築・平成24年卒・同26年前期博士課程修了・㈱鴻池組　**原田　雅俊**

はじめに、学部から大学院までお世話になりました建築防災研究室の谷池先生が３月にお亡くなりになりましたことに心よりお悔やみ申し上げます。谷池先生には、学部時代から大学院まで講義やゼミなどでご指導を頂きました。現在は、谷池先生と谷口先生のご紹介していただいたご縁もありまして、学部と大学院で学んだ風工学の知識も活かせるゼネコンの研究所に勤務しています。まだまだ未熟者ですが、建築防災研究室で学んだことをベースにして、日々勉強しながら、仕事に励んでいます。

最近、その研究所で仕事をしていると、時々思うことがあります。それは、就職活動中での会社説明会などで、「大学で学んだことはほとんど役に立たない」といったことを何度か耳にしたことです。実際、入社１年目の現場での研修期間中は、大学で学んだことを思い出す機会は少なく、ほとんどが初めての体験で、はじめて見るものばかりでした。また、知っていることでも、現場での、ものの呼び方などが違うことも多々あり、初めは苦労しました。

１年目の現場研修を終えて、今年で入社３年目となり、現在の研究所での職務に就いています。大学で専門としていた風工学以外にも、専門でない分野の仕事をすることがありますが、現場での研修の時とは違い、大学で学んだ基礎的な知識が必要になることがよくあります。そのたびに、学部時代の講義で勉強していた内容だと思いつつもなかなか思い出せないこともあります。もっと勉強しておけば良かったと後悔しているわけではありませんが、後輩も増えてきまして、これから気合を入れて頑張らないといけないなと感じているところです。

都市学科（旧土木・旧都基・旧環都）

都市学科の近況

工学研究科教授・都市学科主任教授
鬼頭　宏明

卒業生の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は学外実習や各種講演会などを通して、都市学科・大学院都市系専攻都市学講座の在学生に対し、多くの実践的なご指導を賜り厚く御礼を致します。

さて、平成28年度卒業予定者48名の進路として、33名が本学大学院などの前期博士課程に進学予定で、10名が企業・官公庁から内定を頂いています。一方、大学院前期博士課程２回生34名は、２名が本学大学院・後期博士課程に進学予定であり、４名が技術系公務員として、25人が道路・鉄道、総合建設業、建設コンサルタント、環境・設備系メーカーなどの企業からの内定を頂いています。来春より社会人となる彼ら、彼女らの活躍に教員一同期待しております。卒業生の皆様からも暖かいご芳情を頂けますようお願い申し上げます。

教員の異動として、環境都市学科創設から17年間に及び本学に貢献された、矢持進教授が平成28年３月に定年退職され、その顕著な業績により名誉教授の称号が授与されました。後任として同４月に、みずほ情報総研㈱より相馬明郎教授（水圏生態工学）をお迎えしました。同時に、待望の若手教員として、熊本大学より中條壮大講師（河海工学：本学環境都市学科卒業）が着任されました。

ところで、平成21年度の６学科再編に伴い設置されました都市学科では、来る10年を見据え、昨年度より２年限のカリキュラムTFを設け、求められる卒業生像を描き、現行の提供科目と流れの見直しと刷新を試みようとしております。

末筆ながら、卒業生の皆様の益々のご健康とご発展を祈念致しますと共に、引き続き都市学科へのご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

「近況報告」

土木・昭和57年卒・同59年前期博士課程修了・日立造船㈱　　**福本　和弘**

2016年10月17日に、昭和58年前後に土木工学科橋梁工学研究室に在籍していた学生の同窓会を開催しました。卒業年度は異なりますが、同じ研究室で学生時代の一時期を過ごしています。

年齢的に最も忙しい社会人生活の時期を迎えていることもあり、６名の参加となりました。しかし、会った瞬間から学生時代の様々な記憶がよみがえり、卒業後34年経ったというのが嘘のようでした。小さな出来事を少し話すだけで、皆の記憶の和がどんどんと広がり学生時代の顔に戻っていく不思議な時間でした。

当時の教授は中井先生（平成21年ご逝去）、助教授は北田先生、助手は酒造先生でした。学生の数が少なかったこともあり、先生方との距離が近かったように思われます。同窓会では研究内容についての言及はほとんどありませんでしたが、先生方との会話、研究室旅行、学園祭、また学生だけで夜遅くまで飲み明かしたことについての話はつきませんでした。

20代の時間を大阪市立大学の同じ研究室で過ごしたこと

昭和58年前後に土木工学科橋梁工学研究室に在籍していた学生の同窓会
左より、昭和58年卒（院60年卒）川井正、昭和58年卒越村雅人、昭和56年卒（院58年卒）太田誠三、昭和56年卒（院58年卒）薮内弘、昭和57年卒（院59年卒）福本和弘、昭和58年卒（院60年卒）阪野雅則

は、それぞれの人生に大きく影響を与えたことは間違いありません。社会人となってからは、仕事、結婚、子育て、親の介護等といった学生時代には考えられなかった経験をします。お互いの近況を伝えるための時間はあまりにも短いものでした。年を重ねるごとに時間の余裕がなくなってきていることを同じ年代として確認しながら、まだまだこれからやるべき事がいっぱいの人生であることも同一の見解でした。

これを機会に定期的に会を開こうと約束した名残惜しい解散となりました。

「近況報告」

都基・平成22年卒・同24年前期博士課程修了・前田建設工業㈱　**林　佑治**

卒業生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は、平成24年３月に前期博士課程を修了し、同４月からは前田建設工業㈱に勤務しています。

入社後は、本店の土木設計部に配属され、東京で約２年半を過ごしました。その後、現在に至るまで岩手県大槌町の震災復興事業の一環である造成工事現場で設計業務に従事しています。大槌町は2011年の東日本大震災で津波による大きな被害を受けました。５年経った今でも、その傷跡は未だに拭いきれていません。年々予算が縮減され、なお一層、事業の加速化・急速施工が求められる厳しい環境の中、現在は全国から施工業者を集めて、発注者や地域住民と力を合わせながら一刻も早い復興を目指して日々邁進している状況です。決して楽観できる状況ではありませんが、震災から５年が経ち、三陸沿岸の各地でようやく復興の兆しが目に見えてきたことに喜びを感じながら日々業務に励むばかりです。

私自身、震災当時は大学院生であり、また就職活動の時期でもありました。世の中の混乱も含めて自他ともに迷走しかけていたのを今でも覚えています。当時、あの瞬間には自分がまさか東北地方で震災復興事業に携わるとは夢に

も思っていませんでした。しかし、東京や岩手ではたくさんの人との新しい出会いがあり、日々その人たちに支えられていると痛感するとともに、改めてゼネコンの魅力を実感しています。

岩手県は今年、「いわて国体」が開催され、３年後にはラグビーワールドカップの会場にも指定されています。待ったなしの状況ですが、周囲の人たちと協力しながら真摯に復興事業に向き合っていこうと思います。

「近況報告」

環都・平成24年卒・同26年前期博士課程修了・四国電力㈱

藤井　良平

皆様いかがお過ごしでしょうか。地域環境計画研究室でお世話になりました藤井と申します。平成26年３月に工学研究科を修了し、四国電力㈱へ就職しました。縁もゆかりもない土地へのいわゆる「Iターン就職」でしたが、住めば都なのか、四国で家庭を持ち、それなりに楽しく暮らしております。気候が良く、食べ物も美味しいので、四国に来たことがない方がいらっしゃれば、ぜひ一度足を運んで頂ければと思います。

平成28年８月からは、建築設備を主業務とする部署に所属しております。電力の安定供給が最優先事項となるのですが、当社建物を管理する建築部門として、省エネルギーの実現は重要視されており、発電所から事務所、社宅に至るまで幅広い建物の省エネルギーに携わる機会があります。

現在は新築事務所ビルの設備性能検証を担当し、BEMSデータをチェックして初めて分かる“見えない不具合”の解消や、空調設備の省エネルギー・省コストの達成を目指して、設計者・利用者・管理者での運用改善に向けた協議を続けています。いずれは既存建物も対象として、性能検証の考え方を適用した運用改善・省エネルギー化も手がけていきたいと企んでおります。社会人３年目ながら色々と担当させて頂いている今の環境に感謝しながら、日々努力していきたいと思います。

卒業後は同期で集まる機会も減ってしまいましたが、久しぶりに会って近況報告し合ったら、きっと面白いのではないかと思います。共感頂けた方は是非ご連絡をお待ちしております。

最後になりましたが、皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

桜島にて

工学研究科・工学部の研究分野一覧

専攻名	学科名	分野名	教員名
機械物理系	機械工学科	環境熱工学	西村　伸也
		熱プロセス工学	伊與田　浩志
		流体工学	加藤　健司 脇本　辰郎
		機械力学	川合　忠雄 今津　篤志
		生態計測工学	佐伯　壮一
		材料数理工学	山崎　友裕 大島　信生
		動力システム工学	瀧山　武
		ロボット工学	高田　洋吾
		生産加工工学	佐藤　嘉洋 川上　洋司
		材料物性工学	横川　善之 岸田　逸平
		材料知能工学	逢坂　勝彦 中谷　隼人
		材料機能工学	兼子　佳久 内田　真
	共通 工学部	応用数学	松岡　千博 瀧澤　重志
		機械工作室	吉岡　真弥
化学生物系	化学バイオ工学科	無期工業化学	山田　裕介 有吉　欽吾
		工業物理化学	辻　幸一 米谷　紀嗣
		有機工業化学	畠中　康夫 南　達哉
		高分子化学	堀邊　英夫 佐藤　絵理子 西山　聖
		材料化学	小畠　誠也 北川　大地
		生体機能工学	長崎　健 東　秀紀
		生物分子工学	北村　昌也 中西　猛
		生物化学工学	五十嵐　幸一
		生体材料工学	田辺　利住 立花　亮
		細胞工学	東　雅之 立花　太郎 尾島　由紘

専攻名	学科名	分野名	教員名
電子情報系	電気情報工学科	光電子工学	向井　孝彰 宮崎　大介
		電磁デバイス工学	辻本　浩章
		スマートエネルギー	仕幸　栄治
		情報システム工学	高橋　秀也 吉本　佳世
		情報処理工学	鳥生　隆 中島　重義
		知識情報処理工学	田窪　明仁 上野　敦志
		情報ネットワーク工学	岡　育生
		情報通信工学	原　晋介 杉山　久佳 辻岡　哲夫
		マルチメディア工学	阿多　信吾
	電子・物理工学科	光物性工学	中山　正昭
		フォトニック工学	竹内　日出男
		波動物理工学	菜嶋　茂喜
		ナノマテリアル工学	金　大貴
		数理工学	寺井　章 杉田　歩
		物性制御工学	中山　弘 福田　常男
		応用分光計測学	小林　中
		検出器物理工学	武智　誠次
		パワーエレクトロニクス	重川　直輝 梁　剣波
		材料計測工学	白藤　立 村治　雅文 田中　健司
テニュアトラック連携教員			蔡　凱

専攻名	学科名	分野名	教員名
都市系	建築学科	建築構造	谷口　与史也 吉中　進 鈴木　裕介
		建築防災	谷口　徹郎 ガヴァンスキ江梨
		建築材料	木内　龍彦
		建築環境	梅宮　典子 小林　知広
		建築デザイン	宮本　佳明
		建築史	倉方　俊輔
		建築計画	横山　俊祐 徳尾野　徹
		建築構法	藤本　益美
		コミュニティデザイン	嘉名　光市 吉田　長裕
	都市学科	複合構造	鬼頭　宏明
		コンクリート構造	角掛　久雄
		橋梁工学・鋼構造	山口　隆司
		地盤環境工学	大島　昭彦
		地盤防災工学	山田　卓
		河海工学	重松　孝昌
		水理学	中條　壮大
		熱環境	西岡　真稔
		熱エネルギー設備	鍋島　美奈子
		水圏生態工学	相馬　明郎
		水圏環境工学	遠藤　徹
		水処理工学	貫上　佳則
		廃棄物リサイクル	水谷　聡
		都市基盤計画	日野　泰雄
		都市計画	※嘉名　光市 佐久間　康富
		交通計画	内田　敬
		交通環境	※吉田　長裕 ※建築学科兼担
テニュアトラック連携教員			遠藤　智司

行事報告

平成27年度「学生見学会」

平成28年２月17日（水）、６回目となる「学生見学会」が、「大阪市消防局」および隣接の「西消防署」を見学先として実施されました。今回は、これまでの製造現場（工場）の見学とは一味違い、泥臭く災害に立ち向かう市大卒業生の活躍にフォーカスした見学会となりました。

会議室でビデオによる消防局全体の説明を受けた後、「指令情報センター」の見学、普段入れない「作戦室」にて先輩職員との懇談、「西消防署」の消防資機材（救急車、消防車、はしご車）の見学と続きました。「指令情報センター」での説明、「作戦室」での懇談、「西消防署」の資機材の説明は、すべて、工学部OBを中心とする本学OBに対応していただくことができました。

「指令情報センター」では、大阪市内から発信されるすべての119番通報を受け、巨大な前方スクリーンに映し出される現場情報、救急・消防車両情報を的確に判断し、瞬時に、消防車、救命車両の急行指令を発するという業務が最大９名の職員によって24時間態勢で行われています。

「作戦室」では、大規模災害が発生した場合等に、関係情報をこの「作戦室」に集中させ、適切な初動消防活動支援を行うこと、等の説明がなされ、学生諸君との質疑応答が行われました。

「西消防署」では、救急車両、大型消防車の説明の後、救急隊員のための訓練場にて、40mはしご車のはしごを最大まで伸ばし、代表学生がカゴに乗って40mの高さ（地上13階のビルの高さに相当）を体験する、という実演も行われました。

このような、火災や災害から市民を守るという尊い活動が、カッコいい先輩たちによって行われていることを目の当たりにして、感銘を受けたのみならず、先輩からの様々な貴重な話をお聞きすることができ、学生諸君にとって、とても有意義な一日であったと思われます。

懇親会では、本学経済学部OBの東消防署の女性消防士にも急遽参加していただき、また、一日を一緒に過ごして顔見知りとなった先輩と後輩との間で、打ち解けた雰囲気の中でさまざまな話題に会話の花が咲きました。

先輩が所属する会社や組織を見る、先輩の話を聴く、懇親会で先輩と交流する、の３つがセットとなったこの「学生見学会」は、学生諸君にとって有意義であるばかりでなく、大学と同窓会をつなぐ意味においても大変意義深く、今後も継続が望まれます。同窓会の皆様には、是非、後輩たちにご自分の会社を見せてやっていただければと存じます。

なお、７回目となる平成28年度は、ダイハツ工業株式会社池田工場を見学先とし、最新の自動車製造現場に焦点を当てた見学会とさせていただく予定です。

今回の見学会は、西消防署長の大浦隆司様（S54機械工学科卒）のご尽力により実現しました。ここに改めて御礼を申しあげます。

「ハシゴ車の実演」

「見学会後の懇親会」

「指令情報センター」

「作戦室」

第３回工学部新任・若手教授による講演会～私の研究が目指すもの～

大阪市立大学ホームカミングデーの特別企画、工学部・工学部同窓会共催の標記講演会が11月３日（木・祝）15：00～16：50に工学部G棟１階中講義室で開催された。参加者は工学部受験予定の高校３年生３名と工学部同窓生合わせて40人。

講演会は吉田稔行事担当副会長（機械・昭和52年卒）の司会のもとで進行した。

講演に先立ち、工学研究科長・工学部長佐藤嘉洋先生から、同窓会の様々な援助に対して謝辞が述べられた。続いて西口克彦同窓会長から、工学部の研究に期待する旨の挨拶があり、講演に移った。

一つ目の講演は、機械物理系専攻教授で材料工学がご専門の兼子佳久先生による「ナノ構造金属の構造とその力学特性」。

話題は二つ。まず、ECAP（Equal Channel Angular Pressing）加工によるステンレス鋼の高強度化について。一辺が４mmの正方形断面をもち、途中でL字状に90°折れ曲がった経路をもつダイス（金型）を用いて、ステンレス鋼の４mm角棒材を190℃の低温で押し出し加工を行う。L字状に折れ曲がるところで材料は200％のせん断ひずみを受け、50ナノメートル程度の双晶構造が形成される。押し出し加工を繰り返して行うと、双晶が分断されて100ナノ以下の非常に細かい組織ができる。４回繰り返し加工を行うと、降伏強度は未加工材の７倍に、疲労強度も３倍に達することが示された。次の話題は、電気メッキを利用したナノ多層膜コーティング。イオン化傾向の異なる銅Cuとニッケル Niの電解液では、低電位でCu、高電位ではCu-Ni合金が析出する。異なる電位を矩形波的に繰り返して与えると、厚さ20nm間隔で幾重にも積層させたNi/Cu多層膜が形成され、耐腐食性と強度特性が向上することが示された。

二つ目の講演は、都市系専攻教授で耐風工学がご専門の谷口徹郎先生による「より合理的な耐風設計を目指して」。

建築物にとって、風は地震とともに重要な動的作用で、特に自然風は非定常性が極めて強く、建物周りの流れは複雑である。建物に作用する風力をどう捉えるか、いくつかの研究事例が紹介された。乱れの小さい風洞実験で、建物に見立てた立方体を流れに45°傾けて置くと、屋根面上で、屋根風上側端部付近から交互にスイッチングする一対の円錐渦が発生していることを流れの可視化写真で示された。次に、風洞中の角柱周り90点で測定された変動風圧の測定結果を対象に複素POD（Proper Orthogonal Decomposition）解析を行い、変動風圧場の組織的構造を調べた結果が紹介された。高層建築物の耐風設計では、変動風力への応答として建物が振動するため、応答振動に基づく非定常空気力の評価が重要になる。風洞実験や大規模模型を用いた野外実験における変動風圧測定結果を対象に複素型Wavelet解析や直交Wavelet解析を行い、空力減衰力、変位振幅、非定常空気力を評価した結果が紹介された。

東　恒雄（機械・昭和41年卒・理事）

ご存知ですか？

大阪市立大学では、各分野で活躍している卒業生や教員等の専門家が講師となり、一般市民を対象にした専門家講座を毎年１月～３月に開講しています。分野は法律、会計、証券、技術、文化・歴史、理学、スポーツなど多岐にわたっています。会場は大阪駅前第２ビル６階にある大阪市立大学文化交流センターです。興味がお有りの方は、インターネットで 大阪市立大学オープンレクチャーズ で検索してみてください。

事務局便り

評議委員会報告

会 議 名	第27回評議員会
日　　時	平成28年２月13日（土）午後１時～２時
場　　所	大阪市立大学学術情報総合センター　文化交流室
議案項目	①2015年度（第22期１年度）経過報告 ②2015年度収支決算および会計監査報告 ③会則変更案 ④2016年度（第22期２年度）理事会役員案 ⑤2016年度事業計画案 ⑥2016年度予算案

議案書抜粋

①第22期第１年度（2016年度１月～12月）理事会役員一覧

会　長：西口克彦（化43）
副会長：貴志義昭（建41）、斎藤壽士（物44）、
黒山泰弘（土50）、森田至彦（電51）、
吉田　稔（機52）
会　計：東　恒雄（機41）
理　事：人見宗男（機31）、宮本万功（機43）、
笠上文男（機50）、瀧山　武（機59）、
栗政幸一（電31）、建部　渉（電35）、
行藤三男（電36）、南　繁行（電45）、
木村雅之（電51）、前谷治男（電51）、
村治雅文（電62）、近藤紘一（化37）、
山田文一郎（化修40）、三浦洋三（化42）、
神門　登（化45）、大嶋　寛（化49）、坂　壽二（42）、
金次末廣（建44）、中川長継（建48）、
伊勢博幸（建54）、谷口徹郎（建59）、
湊勝比古（土41）、小林俊明（土44）、
辻江賢治（土48）、日野泰雄（土50）、
大島昭彦（土55）、田守芳勝（物38）、
柳川重昌（物44）、山本　孝（物45）、
大前秀治（物56）
監　事：高桑久茂（電46）、志野太一（物40）

②第22期第１年度（2015年１月～12月）収支決算書

（イ）経常費収支決算表（円）

収　入		支　出	
終身会費	5,700,000	会議費	170,364
貯金利息	1,137	行事費	164,250
経常寄付	331,580	交流・懇親行事費	19,338
		会報発行費	1,529,272
前期より繰越金	3,318,731	会員名簿	183,600
		協賛費	269,183
		渉外費	0
		事務局費	2,430,160
		通信費	97,394
		事務費	118,742
		備品費	54,248
		会費徴収費	52,650
		次期への繰越金	4,262,247
合　計	9,351,448	合　計	9,351,448

（ロ）貸借対照表（2015年12月末）（円）

借　方		貸　方	
振替口座	2,941,124	2014年度　累計剰余金	3,318,731
普通預金	2,474,100	2015年度　剰余金	943,516
定期預金	35,536,359	特別基金	36,689,336
合　計	40,951,583	合　計	40,951,583

③第22期第２年度（2016年１月～12月）事業計画

①会報第32号を12月中に発行･配布。
②工学部･全市大行事及び事業への協力。
③会員相互の親睦交流の促進。
④特別基金の運用と有効活用。
⑤工学部同窓会奨学金基金の運用。
⑥準会員（在学生）の工場見学の実施。
⑦工学部・同窓会共催；新任・若手教授による講演会の実施。

④第22期第２年度経常費予算（円）

収　入		支　出	
終身会費	5,400,000	会議費	160,000
貯金利息	1,000	行事費	420,000
経常寄付	320,000	交流・懇親行事費	120,000
		会報発行費	1,550,000
前期繰越	4,262,247	会員データ管理費	280,000
		協賛費	300,000
		渉外費	20,000
		事務局費	2,300,000
		通信費	100,000
		事務費	120,000
		備品費	100,000
		会費徴収費	80,000
		次期への繰越金	4,433,247
合　計	9,983,247	合　計	9,983,247

新評議員紹介

機械工学科：橋口佳実、山内淳平
電子・物理工学科：原貴則、元長　充
情報工学科：中　照仁、池永裕一
化学バイオ工学科：小林天輝、重枝謙佑
建築学科：野田裕介、藤田拓也
都市学科：新　大樹、森下弘大

第28回評議員会のお知らせ

評議員各位には当会の活動に種々ご協力頂き誠に有難うございます。
　さて、標記の**第28回評議員会**を下記の通り開催致します。万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。
　なお、ご欠席の場合の**委任状**（後日送付）を、**2017年２月３日（金）**までに必ずご発送ください。

記

日　時：2017年（平成29年）２月10日（金）
午後５時30分～６時20分
会　場：ヴィアーレ　大阪

理事会報告

第22期第４回理事会

日　　時	平成27年12月16日午後６時～
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	16名＋事務局

【主な議題】
①会長報告
②奨学金決定審査委員会について
③学生工場見学について
④工学部同窓会HPの更新について
⑤同窓会報の発行方針について
⑥第27回評議員会の開催について

第22期第５回理事会

日　　時	平成28年１月28日午後６時～
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	19名＋事務局

【主な議題】
①会長報告
②評議員会議案について
③奨学金の返済方法について

第22期第６回理事会

日　　時	平成28年４月20日午後６時～
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	16名＋事務局

【主な議題】
①会長報告
②工学部同窓会HPの改善について
③同窓会だよりの編集方針について
④今期の理事会について
⑤理事の役割分担について

経常的活動のための ご寄付のお礼とお願い

日頃は、当同窓会の活動にご協力･ご支援いただき有難うございます。
お蔭様で、2010年（平成22年）11月には当会の設立50周年記念を祝うことができましたが、この間の諸活動は会員の皆様のご入学時にお納め頂いた終身会費を主要財源として継続できてきました。

しかし、2005年の大阪市立大学学友会設立以降は、それまでの各学部同窓会独自の会費徴収が学友会自身の活動費とともに、ご入学時に一括徴収して各学部同窓会に配分される方式に変わり、昨年までの６年間の当会への会費配分額は年々減少し、2011年度には学友会発足以前の２／３にも満たなくなり、事務経費などの可能な削減を進めつつありますが、まだ年収支をバランスさせ得ず、年々預金を取崩す状況になりました。

そこで、会員各位に随時ご寄付をお願いするため、2011年12月に下記の「ゆうちょ銀行振替口座」を開設させていただきました。

何かとご出費もおありとは存じますが、同封の振込用紙にて引き続きよろしくお願い申し上げます。

なお、開設以後現在までに、延べ261名の方から194万円超のご醵金を賜りました。有難うございました。

「ゆうちょ銀行振替口座」
口座記号番号：00970－0－255218
加入者名：大阪市立大学工学部同窓会

第22期第７回理事会

日　　時	平成28年７月20日午後６時～
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	18名＋事務局

【主な議題】
①会長報告
②工学部同窓会HPの改善について
③預金通帳等の名義変更について
④2017年度同窓会奨学金募集について
⑤文化交流センター分担金の承認について

第22期第８回理事会

日　　時	平成28年９月28日午後６時～
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	14名＋事務局

【主な議題】
①会長報告
②受験前内定型奨学金の案内報告
③工学部同窓会報第32号の発行について

平成28年度 工学部同窓会奨学生採用の報告

工学部同窓会設立50周年記念事業として創設された「工学部同窓会奨学金」は、設立50周年記念募金（平成21年9月～平成23年3月）から850万円、同窓会の保有資産から3,000万円の計3,850万円で運営されています。

本奨学金は、経済的理由により入学後の修学に困難が予想される優秀な高校生に対して、入学試験の出願時期より１ヶ月以上も前に奨学生の募集と審査を行い、入試に合格した場合には入学手続き時より奨学金を貸与することを約束するのが特徴です。入学手続き時に50万円、それ以降２，３，４年進級時にそれぞれ25万円の計125万円を無利子で貸与します。

平成28年度入学生向け奨学金から、一般入試受験生用（定員10名）と、推薦入試（指定校制推薦を含む）受験生用（定員1名）に分けて奨学生を募集しました。一般入試8名、推薦入試2名の応募がありましたが、最終的には一般入試1名、推薦入試1名の入学生に対し、入学手続き時に50万円を貸与しました。

奨学金関係の情報は工学部同窓会のホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

奨学金担当理事　東　恒雄（機械・昭和41年卒）

同窓会ホームページ　リニューアル

工学部同窓会ホームページは、全面リニューアルを行い、2016年5月20日から下記のURLより公開しております。

工学部同窓会副会長　広報委員長　森田　至彦

http://kougakubu.osaka-cu.net

Top頁へのアクセス方法は、ブラウザのアドレス入力欄に上記URLを直接入力するか、Google等の検索サイトの検索欄に**「大阪市立大学 工学部同窓会」**と入力してアクセスして下さい。新しいホームページは、スマホ閲覧が可能なデザインとし、利用しやすいようにカテゴリーを整理、動画掲載を可能にするなどの基本デザイン・機能の変更に加え、双方向の情報交換やセキュリティ機能の強化を行いました。

新しく追加した記事・コーナーと双方向機能の使い方

右図はトップ頁と右メニューの部分拡大イメージです。
下記の記事や機能にアクセスされる時は、
各項目に傍記した番号をクリックして下さい。

追加した記事やコーナー

(1) 同窓会の沿革・組織・会則の紹介　❶
(2) 同窓会だよりのバックナンバー　❷
(3) メールマガジンのバックナンバー　❸
(4) 施設利用案内　❹
(5) このサイトの概要説明　❺

双方向機能の使い方

(1) ホームページ等の同窓会広報媒体への寄稿　❻
　TOP頁中央の⑥をクリックすると寄稿フォームへの遷移ボタンが現れます。
(2) メールマガジン配信登録・停止　❼
　メールマガジンは、3ヶ月毎に発行。工学部同窓会ウェブサイトに掲載された記事や事業、イベントの紹介に加えて、コラムを掲載します。
(3) 連絡先（住所・電話番号・メールアドレス）の変更　❽
(4) イベントの参加申し込み

リニューアルに際して、できるだけ簡単な操作となるように設計に努めました。会員の皆様には、是非、同窓会ホームページをブックマークして頂き、連絡先変更、メールマガジンの登録、イベントの参加、活動記録の寄稿など積極的にご利用頂けたらと考えております。
同窓会では、今後もより見やすく便利なウェブサイトとなるよう運営に努めてして参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

投稿方法・事務局への連絡先

近況報告に投稿を希望される方は、工学部同窓会事務局にお問い合わせください。

☎ 06-6607-8373　✉ dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp

編集後記　同窓会便り第32号をお届けします。

西口会長体制の2年目を迎え、理事会、役員会において、運営方針や事業内容を議論しているところです。具体的には、昨年の会報でもご報告したように財務体制の強化、ホームページの更新、会報編集方針の見直しなどですが、難しい課題もありますが、可能な範囲で進めていきたいと思います。なお、検討結果は今後理事会での議論を踏まえて、会報、ホームページ等で会員各位にお伝えしていく予定です。
ところで、本号から昨年までの編集スタイルを少し変更しました（内容自体は大きく変えていません）。編集スタイルについても会員諸氏の忌憚のないご意見をお待ちします。また、同窓会の運営について、会員各位のご支援・ご協力をお願いいたします。

（黒山　泰弘）

編集委員（○印：委員長）
○森田　至彦(電気：昭和51年卒)／黒山　泰弘(土木：昭和50年卒)／人見　宗男(機械：昭和31年卒)／瀧山　武(機械：昭和59年卒)／木村　雅之(電気：昭和51年卒)／村治　雅文(電気：昭和62年卒)／近藤　紘一(応化：昭和37年卒)／山田　文一郎(応化：昭和40年修)／大嶋　寛(応化：昭和49年卒)／伊勢　博幸(建築：昭和54年卒)／大島　昭彦(土木：昭和55年卒)

“工学部同窓会の集い”
ー同窓懇親パーティーー2017ー

来春の“工学部同窓会の集い”下記の通り開催します。
当日は大阪市立大学の現状についてお話ししていただき、そのあと現・旧の恩師の方々にもご臨席頂いて同窓生の方々の現況などをご報告いただいたらと考えております。同期生や職域での同窓生をお誘い合わせの上、ご出席下さい。ミニ・クラス会や、ミニ・職域同窓会を兼ねてのご参加も大歓迎で、年々増えております

記

日　時　2017年２月10日(金曜日)
午後６時30分～午後８時30分

会　場　ヴィアーレ　大阪
大阪市中央区安土町3-13
(TEL：06-4705-2411)
地下鉄本町駅１号出口から徒歩３分、
堺筋本町駅17号出口から徒歩５分

会　費　6,000円(当日、会場にて徴収)

申込方法

1 連絡事項：①ご氏名、②学科(専攻)名、③ご卒業(修了)年、④住所(連絡先)

2 方　　法：ハガキ、FAXまたはHP、e-mail

3 期　　日：2017年２月３日(金曜日)

申 込 先

大阪市立大学工学部同窓会　事務局
〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138
FAX：06-6605-2769
e-mail：dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp
HP：http://kougakubu.osaka-cu.net